成人代表に平井孝治君（９号棟）

ゆり北

第210号（19期第８号）
発行・光が丘パークタウン
ゆりの木北自治会
東京都板橋区赤塚新町
３－32－４－403
TEL・FAX 03(3938)9181番
発行責任者　吉　柳　俊　孝

新成人誕生
ゆり北四五名

各地で成人式の有様が話題を呼んでいるこの頃です。こうしたなか一月十四日、赤塚公会堂で、下赤塚地区の「成人の日のつどい」が開催され、二百名余が出席しました。

昨年は小雪まじりのあいにくの天気でしたが、今年は三月の陽気といわれる暖かな日ざしのなかで行なわれました。式典には女性のほとんどが和装の晴着姿、男性にもチラホラと和服姿がありました。

第一部では主催三者（板橋区、町連下赤塚支部、青健下赤塚地区）からお祝いの言葉があり、新成人代表（男・女）が「誓いのことば」を述べました。九号棟にお住まいの平井孝治君がその一人でした。仲間の声援のなか力強く宣誓をしました。

第二部は、赤塚第三中の校長先生の発声の乾杯ではじまり、恒例となった郷土芸能「赤塚獅子舞」が保存会の方々により演じられました。ゆりの木北自治会の地域では、ゆり北団地四五名、ゆり東五名の新成人が誕生し、このうち二五名が出席しました。

〔参考〕

新成人の人数

	板橋区	下赤塚地区	ゆり北
男	三、一六七名	一九七名	二九名
女	三、一九四名	一七九名	一六名
計	六、三六一名	三七六名	四五名
前年比	一四六名減	一七名減	六名増

この成人式には、ゆり北自治会から青健実行委員の辛島さんが受付に、高橋さん、田中さんが記念写真係として、準備、進行に参加しました。

記念撮影でポーズ！

ゆり北自治会で、国・地方の議員選挙が行なわれる場合、成人式対象者のうちから一名、社会参加の第一歩として投票所の立会人をお願いしています。今年の選挙は未定ですが、行なわれた場合はよろしく。

年末パトロール
五十余名が参加

年末恒例のパトロールを十二月二十五日から三十日まで管理組合理事、自衛消防リーダー、世話人の方々、お父さんお母さんと一緒の元気な子供達など延べ五十人以上のご協力をいただき無事一年を締めくくることができました。

昨年、町の功労者として表彰された吉田君も元気に参加してくれました。しかし、今回は元気な子供たちの参加が増えたので吉田君も少々おされ気味でした。これからは、ジュニアのリーダーとして子供達を引っ張ってもらえると、自治会役員も少し楽になれるかな。

団地内の駐車で目に付くのは十四号棟東側にいつも同じ車が駐車され、ここを駐車場にしているとみられるものも数台見受けられました。その他は十号棟東側など夜間帯の常時駐車が目に付きました。目に余るものはこれからも積極的に警告をして行きます。建物内部の不審者、特に高層棟のエレベーターホールや非常階段は念入りに点検しましたが特に問題はありませんでした。ごみの集積場は年が押し詰まるにつれて、どんどん増えてついに蓋のできない状態、というより、周囲にもあふれるような状況でした。

年末、ごみが増えるのは仕方の無いことですが、年内の収集が終了してからはできるだけご家庭で保管しておいて、収集が再開されてからお出しください。

今年一年平穏な年になりますように。みなさまのご協力をおねがいします。

防犯防災部

古布の回収は
百キロ

資源ごみとして出された古布がホームレスなどにより荒らされ、結局燃えるごみにせざるを得ない現状を改善するため、年末に古布回収を単独で行ないました。集荷は約百キロになりました。今後も数カ月に一回程度計画をします。ご協力下さい。

午後９時半から約一時間巡りました

自治会からのお願い
自転車の整理・処分は
所有者が各自責任を持って！

年末大掃除の際、整理札を付けたままの壊れた自転車やまったく使用されていない自転車を自転車置き場から引き出し、それぞれの棟の一～二ヵ所に集めました。その数は二百四十台に及びます。このほとんどがゆり北住民のものです。一昨年から、板橋区の「家庭内不用自転車」一斉処分が廃止されたため、**自転車の整理は必ず所有者各自**で行っていただくようにお願いしていたところです。それでも粗大ゴミの連絡をして整理される方はほんのわずかです。どうせそのうち自治会で何とかするだろうと言う気持ちをあらためて、どうか各自で責任を持って処分されるよう強くお願いします。**モラルを守って綺麗な住み良い環境を維持しましょう。**

なんと全部で240台！

生活環境部

午（馬）年に
駒ケ岳を登破したい

馬は犬と同様、日本人の生活では親しい動物です。地名にも沢山あります。私が趣味としている登山の対象となる山にも、白馬岳、駒ヶ岳、陣馬山、乗鞍岳、栗駒山などがあります。

駒ヶ岳には、地名を冠した山が各地にあります。甲斐、木曽、越後、会津など百名山に名を連ねる山だけでも四つあります。このほかにも秋田駒、南駒（中央アルプス）もあります。

箱根にも駒ヶ岳ロープウェーがあります。私はこの中で昨年は、乗鞍岳に登りました。標高三、〇二六米、国内では十九番目の高山ですが、二七〇〇メートルの畳平まではバスや自家用車で登ってしまいます。あとは二時間程の登りです。当日はあいにくの霧と強風で三六〇度の眺望は望めませんでしたが、高山植物の数々は楽しめました。

甲斐駒には高校生の時に登りました。アルプスといわれる山登りの最初の山でした。木曽駒には二〇代の時に、五月、八月、一月と一年間に三回も登りました。きついこともありましたが、楽しい思い出です。

今年は、午年にちなんで、会津、越後などの駒ヶ岳に挑戦しようかなあと思っています。

初夢に終わらないように、足・腰をきたえていきたいと思います。

（四号棟Ｋ生）

明るく元気な新成人に乾杯!!

中学時代を思い出す人間ピラミッド

新成人のみなさんおめでとう!

一月十四日、赤塚公会堂で成人式が行われました。ゆり北団地で四十五名の新成人が誕生し、そのうち、二十五名が式に参加しました。お手伝いの私は大勢の新成人に囲まれ、気分はすっかり浦島太郎でした。

もう十年ぐらい続けているのだろうか、青少年健全育成実行委員として、毎年、成人式の会場で写真係をしています。これは自分にとって正月のひとつの楽しみでもあります。素人ゆえ、これまで何度か失敗もありました。スタッフが着付けを手直したりネクタイを直したり、新成人と楽しい会話を交わしながら毎年がんばっています。

そのような場所において、わたしが撮りたいテーマは「笑顔」です。コチコチに固まった写真などハナカラ撮る気がありません。親御さんからすれば「ナニ!この写真は!」ということになるのでしょうが。それぞれみんなには思い思いのポーズを取ってもらいます。例を挙げれば、晴れ着を着たお嬢さん数人が一斉に空中に飛びあがり宙に浮いた状態「飛んだ成人式」とか、カメラに背を向け「見返り美人」、男子数人によるあふれる力と強固な団結「人間ピラミッド」などなど。あんなカメラ係辞めさせろという声が聞こえそうですが、わたしは彼らの、もう二度と戻らないピカピカ輝いたこの瞬間を残したいのです。どこかの会場で、泡盛飲んで大暴れした彼らにとっても、あれが彼らの成人式だったのでしょうが。

しかし、輝いているのと目立ちたい気持ちとではまったく違うようにおもえました。そのようなニュースが伝えられる中、下赤塚地区会場は地元のおじちゃん、おばちゃん達に見守られ、みんなが和気あいあいの成人式でした。毎年、全国の会場ではあの手この手と工夫を凝らし苦労の絶えない行事でもあるようですが、板橋においては地元の会場で、地元のみんなが見守ってあげるこの形が一番ではないかと思っています。

若いお父さん、お母さんたちもなにかと多忙でしょうが、いずれあなたたちのお子さんも成人式を迎える歳がくるのです。自治会や青健の各種行事に子供と一緒に参加して、こどもたちに自分の活動を見せてあげてください。自分の子や近所の子が成長して行く過程をやさしい気持ちで見守ってみましょう。それが非行防止にもつながっていくのではないでしょうか。自治会も青健も若い力を求めています。

ゆり北に非行は無い。下赤塚は非行と無縁である。これを維持していってほしいのです。非行の芽を無くすのも地域のお父さん、お母さん、あなたたちの役目ですよ。

成人式のお手伝いをして感じたままを書いたのでまとまりの無い文章になってしまいましたが、気持ちだけはご理解いただきたいと思います。

青健実行委員　高橋廣志

今年も元気に新年会!!

―ゆりの木会新年会開かれる―

前日からの雨も午後には上がり、すっかり春めいた一月二十七日、ゆりの木会（小川希代会長）の新年会が赤塚新町集会所で開かれた。

塩原副会長（十一号棟）の開会の挨拶により、新年会は始まった。来賓を代表して、吉柳自治会会長から、最近ひとり住まいの老人宅への救急車の出動があったことが紹介され、日頃の近所付き合いを大切にして、今年も健康に留意して過ごしていただきたいとの挨拶があった。

次いで、小川会長（四号棟）により、毎週日曜日に実施されているケヤキ通り清掃ボランティアなどのゆりの木会の活動の紹介と役員へのねぎらいの挨拶があった。

その後、全員による乾杯と懇談に移った。あちらこちらでにぎやかに話の花が咲き、祝杯が上げられ、カラオケが始まった。

カラオケのあとは、誕生プレゼントの贈呈である。会員の誕生日を聞くたびに、若輩の自治会役員の参加者は、会員のお元気な様子に驚きの声を上げていた。

今年は、合計三十五名と多数の参加者を迎え、司会を担当した塩原副会長のユーモアあふれる進行に、参加者は笑い声を上げながら、賑やかに楽しい時を過ごした。

閉会の挨拶として、参加者の最高齢である星名さん（五号棟）が、上杉謙信の詩吟を紹介した。昨年、ぎっくり腰を患ったという星名さんではあるが、九十二歳とは思えぬ張りのある声で浪々と歌い上げ、参加者を驚かせた。

阿部さん(十号棟)の音頭による三本締めにより会を閉じ、今年も元気に仲良く過ごしていこうと参加者全員で誓い合い、記念写真に収まった。

元気にあいさつ　小川会長

笑顔があふれる新年会

捨て猫は飼い主の身勝手

どうするこヤー ＝その後＝

昨年のゆり北広報十月号に、商店街付近に住んでいる野良猫の問題を掲載しましたが、その記事に関連して、ゆり北団地外にお住まいの方からお手紙をいただきました。

あの記事が掲載されてから間もなく投函いただいたのですが、たいへん長文であり、紙面の編集の都合などでなかなか紹介することができませんでした。原文を掲載すると紙面が足りなくなるので要約させていただきます。もし説明が足りなかったとすれば、次回ご意見をお聞かせください。

さて、このお手紙をくださった方は、匿名でしたが、私達が現在すんでいる光が丘パークタウンゆりの木通り北、南の二団地ができる前の昭和五十六年頃から、お隣の睦台団地にお住まいで、その当時からこの問題に取り組んでおられたそうです。現在は近くに越されたそうですが、この猫達の最期を看取るまでは何とかしてあげたいというきもちで活動しているのだそうで、グループなどではなく個々の意思により、私費を投じて、これらの野良猫たちに避妊手術をさせたり、里親探しをしたり大変な苦労されているとのことです。

この猫達は以前、どこで飼われていたのか、それぞれ履歴があるのだそうです。よしや側に住んでいるのは現在の公務員住宅が木造一戸建の頃に飼われていて、建て替えられるとき置き去りにされた猫の子孫です。ゆりの木通り側に住んでいるのは、ほとんどが睦台団地で飼われていて転居の際捨てられた猫であるとのこと。

捨てられても、一度人間に飼われた猫は、人間から離れられず近くに住み着いて子孫も増えてゆくのはあたりまえで、飼っていた人間の身勝手な行動の結果なのかもしれません。

以前、テレビにて、新宿の繁華街をねぐらにして、したたかに生きる野良猫親子の物語を放送したことがありました。それらの野良猫と、それらをみまもる人間との係わり合いが中心でしたが、ではこの猫達をどうしたらいいのかというところまで踏み込んだものではありませんでした。

やはりかわいがって餌を与えるだけでなく、どのようにして野良猫をなくしてゆくのか、その方法を考えてゆかなければなにも進展しないと思うのです

しかし猫は生き物、雄と雌がいればその数は増加します。ですから、いま飼われている方は絶対に捨てないようにしてください。

それぞれの家庭で、どれだけみんなの心を癒してくれたか、もう一度考えてみてください。そして、いま捨てられている猫達をどうしたらよいのかみんなで知恵を出し合いましょう。

自治会に寄せられたお手紙を読んで、広報部としておおむねこのように理解しました。実際に行動されている方もおられるのですから、住民みんなで考えましょう。放置して置けない問題だと思いますが、皆さんはどのようにお考えですか、是非是非建設的なご意見をお寄せください。

〈広報部〉